

地球のいのちの営みを根底に据えた  
共に生き合うコミュニティ創造と実践の情報を発信する



# いのちの森通信



財団法人  
いのちの森  
文化財団



Vol.3  
2007.APR.

平成 19年 4月 10日発行  
編集 山下 薫

発行 /財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888長野市大字上ヶ屋 2471番地 2198 026-239-0010 FAX 026-239-0011  
ホームページ http://inochinomori.or.jp Eメール zaidan@inochinomori.or.jp

共に生き合う、今に生きる、いのちを感じる、  
自分を見つめる、生き方を模索する…  
青少年の育成・自立支援・社会復帰支援のための  
体験を通して共に学び合う「拠点」を設立致します

いのちあるものすべてが仲間同士

いのちの森文化財団は、「地球全体のいのちの営み」を根底に据え、いのちあるものすべてが仲間同士であるという意識を創造することと理念を定め、設立させて頂きました。この理念は競争が激化する現代資本主義社会の中において、きれいな事に過ぎるとお感じになる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、地球の限界が目前にきている現在、自分さえよければ、自分の家族さえよければ、自分の国さえよければということはありません。得ないことが明らかになってきています。競争社会に生きてきた私たちは、意識を180度転換せざるを得ない状況にきています。

経済の豊かさ  
自殺者の増加

競争が激化したのは戦後、欧米諸国を目標として経済成長に邁進した時期と重なっています。戦後の日本社会は餓死者が出るほど貧困状態でしたので、豊かな社会に向けて経済成長を目指したのは当然が望んだことだと思えます。そして日本は高度経済成長を達成し、現在ではGDP(国内総生産)でアメリカに次いで第2位の経済大国にまでなっています。しかしながら、日本国民が本当に豊かになったかといえは、平成17年の自殺者は全国で32,552人と平成6年と比べて15倍以上と急増しています。自殺者の家族の悲しみや周囲の人々への影響は大変深く、心に残ります。さらには、自殺願望を持つ自殺予備軍は、300万人とも言われています。

心の豊かさが重要

このように私たちの日本社会は、経済や物質的には豊かになったと言いますが、心の豊かさが置き去りになってしまっているといわざるを得ません。このことをしっかりと自覚して、環境問題や高齢化や国の債務増加の問題などに対しても、



娘との苦悩の生活の中で  
幸か不幸か、私は昭和9年に娘を出産したのですが、出産時の事故で娘は前頭葉損傷の障害を負ってしまいました。この娘は、自力で歩くこと、食べることに、話をする、排泄が生産できないことなどを医師に告げられ、途方に暮れました。この子を施設に預けたくはない、しかし、そのためには自分余儀なく娘に付き添う生活をしていく。この子とどう生きていくのか、自分の生きる意味とは何なのか、と日々葛藤と苦悩の中に生きてまいりました。禅を中心に神道、キリスト教と答えを求め続けてまいりましたが、何かに依存することではなく、真なる自己を見いだすことこそ大切なことであると思いに至りました。そして、将来の不安などは自分自身が作り出していることに気が付き、娘と共に生きていくことと決意したのです。娘は、去る平成19年4月3日に2回目の誕生日を迎えることができました。それは多くのみなさまに支えられて来た日々の連続でしたが、その中で、「人生について深く知りたい」など悩みを抱えた若者たちが集まってくるようになってまいりました。

青年たちと共に生きる

私たちが、娘のおかげで競争に勝ち抜く生き方から共に生きる



娘と共に生きる日々

る生き方に転換せざるを得なかったのです。そのおかげで、共に生きるすばらしさを教えられました。  
そして、14年前の平成4年に共に学び合うスペース「水輪」を開設させていただき、養生塾などの講座開催や、のべ約300名ほどのワーキングスタディー参加者を受け入れ、共同生活を通じ、娘、息子のようにならぬよう、生きてまいりました。私からみれば、自分で歩けるし、食べられるし、話もできるのに自分の心の癖のせいで、引きこもりをしたり、アルコールに依存したり、拒食に走ったりと自らで、自分を悪くしている。本当にもったいないと強く思うのです。私に娘は、それがしたくてもできないのです。本当から。今は、もったいないという言葉が文化となっている時代ですが、ものだけではない、心が貧しくなっている状態も本当にもったいないと思つたのです。

渇いた心を潤す  
ひとしずく

そして、現在スタッフ、研修生が6名、長期ワーキングスタディー実習生が4名とスタッフルーム「早穂理庵」も満員状態となり、受け入れスペースの確保が必要となつてきている状態です。また、スタッフも徐々に力を付けてきて、ワーキングスタディー実習生を増やしていきける状態になってまいりました。力を付けてきても、完全に任せるのには力不足なので、今後10年を目処に私たちの実践と学びを受け継いでいただき、より公共的な活動としていきたいと考えております。そして、この共に生きることを体験していった卒業生が、現代の渇いた心を潤してくれる一助となることを願って、青少年育成センターを設立することを決意致しました。ぜひとも、みなさま、ご支援ご協力の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。日本の未来を担う若者たちをぜひ心援してください。

## 生から死まで共に生き合うコミュニティ空間の創造 いのちの大学構想 青少年育成センター 「いのちの森の学校(仮)」 設立に向けて

塩澤みどり  
(いのちの森文化財団理事長)



ワーキングスタディーを通して、  
摂食障害を乗り越える学びの日記

イーで学んでいる方の日記をご紹介します。読んで頂き



3月16日ぶどう植樹祭にてスタッフ、ワーキングスタディー参加者、ご協力頂いた皆様

彼女は、本年1月に過度の拒食とパニック障害、うつ病の症状があり、その病を克服したいと自ら望んで申し込まれ、現在も学び続けています。1月5日、前向きに生きるのに慣れてないよ。眠ったりに、食事したり、ありとあらゆる

ゆることに支配されているようで落ち着かない。朝、お父さんとケータイでメールしたけど、「帰りたい、むかえに来て」ばかり言っていました。下剤飲んでしまった。  
2月8日 今日、坐禅に行つて少し気持ちが落ち着いた。坐禅に行く前は、「今日はもう疲れた。行きたくない」と駄々をこねていたが、呼吸法をしていると少し「無」の状態に近づけたような気がする(1ミリくらいだが)。きつと一心に呼吸になりきるからだろう。  
4月5日 38キロになった。普通に近づくと努力をしない。食事の時にひじをつかない。えり好みしないでちゃんと食べられるようになりたい。真善美が大切にしたい。研一先生は言う。美意識を育てたい。自分自身がまがっていったから生理も来ない体になつてしまったんだと思つてもっとつけて、43キロくらいになれば、もっともっと周りの世界も違って見えるかなあ。40キロ以上になるなんて7キロの時は考えてなかったけど、努力すればちゃんと増えてくるんだ。そんな素直で前向きな体の声に耳を傾けたい。(K・I)

### 青少年育成センター「いのちの森の学校(仮)」概要

|    |  |
|----|--|
| 場所 | 農地に隣接するグリーンオアシス南東の一角   |
| 施設 | 木造2階建 2階: 宿泊部屋(全6部屋/定員18名)<br>1階: 多目的スペース(農作物加工、園芸作業、休憩、食事他)<br>地下: 貯蔵スペース   |
| 対象 | 青少年(いのちを中心とした生き方を模索したい・学びたい方、悩みを解決したい方)  |
| 事業 | 短期・中長期ワーキングスタディー受け入れによる、社会学習支援・自立支援・社会復帰支援   |
| 内容 | スタッフ、ワーキングスタディー実習生との共同生活による共同学習、清掃と通して心を磨く講座、しつけ教育、いのちとつながる自然農ワーク、講座企画サポートワーク、講話、クッキングワーク、坐禅、呼吸法、グループミーティング、カウンセリング、ボディセラピーなど<br>運営母体につきましては、新たな法人設立も視野に入れて検討しております。 |

いのちの森文化財団 青少年育成センター設立 特別基金のお願い

期間 平成19年4月1日~平成21年3月31日  
目標額 2,500万円

特別基金お振り込み先

郵便振替口座 00520 3 42181 名義 財団法人いのちの森文化財団  
郵便振込用紙ご利用の方は、「特定事業寄附」とご記入下さい。  
八十二銀行本店営業部 普通口座 1093531 名義 財団法人いのちの森文化財団

みなさま、よろしくお願ひ申し上げます





【特集】全4回シリーズ 第2回

今、私たちは何を見つめ、考えて、行動するのか...

現代社会には、人間のいのちや心よりも「お金」や「モノ」や「効率」が優先されてしまう本来からずれた考え方と現実が蔓延してしまっています。諸問題の根源には、この本来からずれた考え方があると思われま...



言語や技法も、このよきな生命的交信の場を母壤にしてこそ、予想外の気づきや、新たな物語りの展開へと通じて行く...

真の対話に宿る癒しのちから

前回、現代社会の歪みの病根として、対話不在がある旨を指摘する...

現場から、事例に学びつつ、改めて対話の潜在力につき、ふりかえってみたいと思えます。

事例 35才の摂食障害の女性

この方は、いわゆるキャリアウーマンでしたが、夫婦関係や職場内対人ストレスを背景に、次第に拒食傾向に陥り、多くの医療機関を転々してきまし...

縁あって、小生のメンタルヘルス外来を訪れたときは、痩せの問題より、希死念慮が主訴でした。自ら「死にたい病」と称し、まさにいつそれを実行してもおかしくない雰囲気を感じ、薬物療法をはじめとする様々なアプローチも効無...

予期しない展開

入院後も、治療的関与には全く無関心を通し続ける

対話に潜むちから

- ある事例を通し改めて学んだこと -

異 信夫 (元信州大学医学部助教授)



なか、4、5日目頃、急に表情を和らげ、「ニコニコ」と今一度、生きてみる気になりました。と述べられたのは、まさに晴々のハレキでした。

尋ねますと、病院食にもかかわらず、ご本人の体調と好みにピッタリの心づくしの個人食を前にしたのが、そのきっかけだったようです。

とここで、精神分析医、神田橋條治氏も、身体的治療の場合と同じで、精神の治療の根本のところは、その主体の自己治療力により行われるのです。

治療とは、「主体の自己治療力」を抱える場を「設定」することです。ですから、本質的には関わりがあらゆる精神療法の全てです。



異先生は、いつも実践的で奥が深いお話をして下さいます

「ここには、心身を包括する『いのちの働き』そのものに自己調整機能が潜在し、しかもこの営みは個体内に閉じられたものでなく、自己と他者とのあいだ(命の磁場)において、自ずと生成展開する」といふ基本原則が語られています。

いのちの次元での交信

さらに、言語的な意識活動が、合理的モノの世界を主要舞台とするのに対し、いのちの次元での交信は、基本的に言語化以前の波動レベルの作用によって営まれる点にも、改めて注目しておきたいものです。

と同時に、モノ的、操作的な態度の発信自体が、反生命的、非生命的であることも、浮き彫りになってまいります。それだけに、面接者の「いのちの理」(ことわり)に随順するあるがままな姿勢こそが、クライエントの生命次元に浸透し、更にその生命次元の開示は、面接者側の解放も促すといった、相互浸透的な磁場の醸成を通じてゆくといえましよう。

治す医者という立場を卒業

なお、前述事例を経験したころ、嗜癮行動関連の旗手、斎藤孝氏、及び統合失調症に対する自助活動のメッカ、'べてるの家'で活躍中の、川村敏明氏の含意深い発言に

たつみのぶお・医学博士。元、信州大学医学部精神医学教室助教授。現在、信州大学病院メンタルヘルス外来専任医。上海交通大学医学部客員教授。長野県産業保健推進センター基幹相談員。日本・欧州サイコロセラピー資格認定。いのちの森文化財団理事。専攻：精神病理学・精神療法学。著書「心理療法の本质」(日本評論社)他。



直接的ぐり合う機会がありました。斎藤氏は、「治療者自身が無力感に徹することこそ、なによりも基本」と述べ、又、川村氏は、「私は、良い医者とか、治す医者という立場をすでに卒業しました」と、語っています。

苦しんでいるあなたに気持ちを聴かせよう

一宮修(カウンセラー)



インターネットでのテレビカウンセリングを受け付けます

青少年の方、パソコンのスカイプ(注)でお話をしませんか。内容は、対人関係や自分自身の心理相談や就職に関する事など、なんでもOKです。

対話を通して自分自身を感じる

人間は社会的に生きてはいますが、21世紀は特に個を尊重する時代になってきています。私たちはそれぞれに個としての自尊心があり、生き方も自分に合うものでないと納得できません。しかし実際は、どうしても周囲が気になり、ムリに合わせようとしてしまいます。特に繊細な人は傷つきやすいだけに、大変なストレスになり、その狭間で苦しんでしまいます。

こういつ時に対話すると、もちろん誠実な信頼関係があることが前提ですが、自分自身を感じることに役立つのです。だから、一番大切なことは、「良き理解者との出会い」です。自分を分かっていてくれる人は、現実にはなかなかいません。そのため、傷つきやすい人は、次第に孤独になっていきま...

気持ちそのものを話してください

自分の気持ちを話すとすると、はじめはいろいろと抵抗があるかもしれませんが、特に無口な人はなおさらでしょう。大事なことは、自分の気持ち(感情)を話すことであって、気持ちの説明ではありません。

理由「よりも」苦しい、つらい、悲しい...という気持ちそのものを話してください。少しずつ心が軽くなっていくことでしょう。「自分の気持ちを十分に話してください。わたしは、あなたの気持ちを大切に聴きます。問題の解決の糸口は、あなたの中にやがて自然と生まれてくるでしょう。」

(注)スカイプとは、世界中への無料通話を可能にするソフトウェア。スカイプ社のホームページからダウンロードできます。ソフトウェア、使用料、通話料が無料。設定も簡単なことから、現在、全世界でダウンロード数4800万人を超えています。

お申し込み方法 以下の(1)~(10)にご記入の上、Email FAX、郵送にていのちの森文化財団事務局へお申し込み下さい。詳細をお知らせ致します。 申込先 〒380-0888 長野市大字上ヶ屋 247番地 2198 FAX 026-239-0011 Email zaidan@nochinomori.jp (1)氏名 (2)年齢 (3)性別 (4)住所 (5)電話/FAX (6)携帯電話 (7)Email (8)職業 (9)申し込みのきっかけ: 通信/インターネット/紹介者/その他 (10)相談したい内容

### 2007年度いのちの森文化財団主催事業

～一人一人のいのちが光輝くために～

|         |  |   |  |   |   |
|---------|--|---|--|---|---|
| 社会教育事業  | 実践教育講座<br>講師 芳村思風 先生<br>感性にもとづいたところに働きかける教育論を学びます                  | 2月3日～4日<br>4月14日～15日<br>6月9日～10日                                    | 10月13日～14日<br>12月15日～16日               |    |   |
|         | いのち学<br>講師 帯津良一 先生<br>心といのちの場に目を向ける医療の姿勢を学びます                      | 3月23日～25日<br>5月11日～13日<br>6月1日～3日<br>7月20日～22日                      | 9月7日～9日<br>11月16日～18日<br>12月7日～9日      |    |   |
|         | 養生塾<br>講師 帯津良一 先生<br>帯津先生との車座交流会など自然治癒力を高める実践合宿です                  | 3月23日～26日<br>5月11日～14日<br>7月20日～23日                                 | 9月7日～10日<br>11月16日～19日                 |    |   |
|         | メンタルヘルス講座<br>講師 巽 信夫 先生<br>メンタルヘルス外来専任医の巽先生から人を癒す力と人間力を学びます        | 4月20日～22日<br>6月1日～3日<br>8月24日～26日<br>10月19日～21日<br>11月30日～12月2日     | 2008年<br>2月15日～17日                     |    |   |
|         | ホメオパシー講座<br>講師 細谷律子 先生<br>臨床の現場で、数多く実践を積まれた細谷先生からホメオパシーのセルフケアを学びます | 10月19日～21日<br>12月7日～9日<br>2008年<br>2月1日～3日                          | 2008年<br>4月4日～6日<br>6月6日～8日<br>8月1日～3日 |    |   |
|         | 内観セミナー / 内観研修<br>神渡良平 先生・塩沢研一<br>人間関係から自己を見つめます                    | 7月5日～8日 / 【随時開催】<br>内観研修は随時行っております。基本は7月8日ですが、短期も可能です。お問い合わせ下さい。    |  |   |   |
| 文化事業    | スーザンオズボーン<br>ボイスセミナー<br>歌えばいのちが癒される<br>歌えばいのちがよみがえる                | ビギナークラス 9月15日～17日<br>アドバンスクラス 9月22日～24日                             | 9月15日～17日<br>9月22日～24日                 |  |   |
|         | ウォンウィンツァン<br>ワークショップ<br>ピアノコンサート<br>ありのまま、そして自分らしさを取り戻すワークショップ     | ワークショップ 10月6日～8日<br>コンサート 10月7日                                     |  | 10月6日～8日<br>10月7日   |  |
|         | こけ玉グリーンアート<br>セラピー<br>深緑のこけ玉は宇宙観を感じさせ、私たちを癒してくれます                  | 【随時開催・日帰り・宿泊】<br>日程はお問い合わせ下さい<br>山野を散策しながら自分の好きな植物をこけ玉にしてみよう        |  |   |  |
| 青少年育成事業 | リーダーシップワーキング<br>スタディーセミナー<br>共同生活とワークを通して、人を導くリーダーシップを学びます         | 【随時開催】原則1週間以上<br>日程はお問い合わせ下さい<br>ワークスタディー学（人間力、洞察力など）からリーダーシップを学びます |  |  |   |
|         | ワーキングスタディーステイ<br>共同生活とワーク、坐禅などを通して、自己の課題に取り組みます                    | 【随時開催】日程はお問い合わせ下さい<br>精神的自立、肉体的な自立を目指し、何者にもブレない自己づくりしていきます          |  |   |  |
| 自立支援事業  | テレビカウンセリング<br>苦しんでいるあなたの気持ちを聴かせて下さい                                | 【随時開催】日程はお問い合わせ下さい<br>全国の青少年のみなさんご連絡をお待ち致しております                     |  |  |   |

各講座の詳細は、ちらし・ホームページをご覧ください。事務局に資料をご請求下さい。

財団法人いのちの森文化財団  
平成18年度第2回理事会並びに  
評議委員会のご報告

去る平成19年3月3日、心と体といのちのセンター水輪（長野県長野市上ヶ屋2471番地2198）に於いて、午後3時より本財団の評議委員会、同4時より理事会が開催され、以下の議案について審議され、活発な議論が交わされ、最終的には全議案とも可決されました。

評議委員会への出席は久保俊宏、飛田航介、山下薫、矢野みさ子、議決書提出は藍原繁樹、木下修、藤田政良の各氏、理事会への出席は塩沢みどり、塩沢研一、鈴木重平、巽信夫、議決書提出は帯津良一、細川佳代子、山本勇人、芳村思風の各氏でした。

また、会の終了後は水輪レストランにて出席役員で具体的な事業内容などについてより具体的な意見交換を致しました。評議委員会、理事会の内容は以下の通りです。

財団法人いのちの森文化財団  
第2回評議委員会

評議委員会開催にあたり、互選により、山下薫が議長に就き議事を進める。議長により、議事録は久保俊宏に指名、拍手により承認される。

・第1号議案「平成18年度事業計画修正案の件」  
事前配付資料に基づき副理事長の塩沢研一により説明、質疑を求め、賛否を問う。賛成多数により承認。

・第2号議案「平成18年度事業予算書の案の件」  
事前配付資料に基づき副理事長の塩沢研一により説明、質疑を求め、賛否を問う。賛成多数により承認。

・第3号議案「特別基金募集開始の件」  
事前配付資料に基づき副理事長の塩沢研一により説明、質疑を求め、賛否を問う。賛成多数により承認。

財団法人いのちの森文化財団  
第2回理事会

理事会開催にあたり、理事長挨拶後、理事長が議長に就き（寄附行為第29条）議事を進める。議事録は久保俊宏に指名、拍手により承認される。評議委員会議長を務めた山下薫に評議委員会での審議報告を受け議事審議に入る。

・第1号議案「平成18年度事業計画修正案の件」  
事前配付資料に基づき副理事長の塩沢研一により説明、質疑を求め、議決書提出者の山本氏から講師の肩書き修正の提案、事業計画・予算決算書の期間についての修正提案が出る。また、鈴木氏より講座回数の修正の提案があり、これらの提案を反映させることと合意に至る。その上で議案の賛否を問う全員賛成により承認。

・第2号議案「平成18年度事業予算書の案の件」  
事前配付資料に基づき副理事長の塩沢研一により説明、質疑を求め、鈴木氏より特別基金は募集目標金額を設定する必要があり、2,500万円という提案が出て、今後2年間で、青少年育成センター「建設の為、2,500万円を目標金額に設定することと合意に至る。その上で賛否を問う、賛成多数にて承認。

・第3号議案「特別基金募集開始の件」  
事前配付資料に基づき副理事長の塩沢研一により説明、質疑を求め、鈴木氏より特別基金は募集目標金額を設定する必要があり、2,500万円という提案が出て、今後2年間で、青少年育成センター「建設の為、2,500万円を目標金額に設定することと合意に至る。その上で賛否を問う、賛成多数にて承認。

#### < 広告 >



山本記念病院 連絡先  
045-593-2211 (病院代表電話)  
045-594-2417 (総合診療部直通)  
山本記念病院ホームページ  
http://www.yamamoto-k-nen.or.jp/

自分が入院したいと思える病院を作りたい

私達の病院は、東急東横線の日吉駅から、高台に登ることバスで15分のところにあります。そこは大都市・横浜とは思えない畑の広がるのどかな光景が見られ、その畑のなかに白い教会の尖塔のような避雷針の塔のある、遠くには富士山が見える9診療科目の131床の病院です。山本百合子理事長の父上、故山本善三先生の「自分が入院したいと思える病院を作りたい」という強い信念の基に、1984年創立されました。善三先生は、精神科の病院を、都内で建てていました。森田療法をいち早く取り入れた画期的な病院で、子供の時から患者さんたちとともに生活をしていた百合子医師は、父上のご遺志を継いで、人を愛し、人を信じ、その精神に共鳴する人々によって運営される病院を、この地に頑張っています。さて、具体的にどういう運営になるのか。日々の臨床に生かす方法を模索するなかで、シユタイナーに出会い、そして皆様との出会いがあり、アントロポゾフィー医学との強い結びつきを得ました。総合診療部には、気の医学で、上記の精神に共鳴した、金医師、能見医師が5年前から勤務するようになって、

新しい発想を形にすることができるようになったことから、3人揃って「国際アントロポゾフィー医学セミナー」に参加しています。そこから発展して、「日本アントロポゾフィー医学のたのめ医師会」の事務局を総合診療部で、させていたくことになりました。ドイッでアントロポゾフィー医学を学んでいた小林國力医師が今年9月から仲間になり、2007年医学セミナー開催の中心として、事務局が機能することとなりました。また、長野在住の大住裕子看護師による「シユタイナー」看護を学ぶ「セミナー」を総合診療部で隔月開催していただいています。病院勤務の看護師たちにも一緒に学ぶ場を提供したい、という山本理事長からのメッセージです。

総合診療部は、ホリスティック医学の観点から、人間は心と体がひとつとなっていることを患者様自身が認識できる方法論を、さまざまなアプローチで、わかっていたくように工夫をしています。ホメオパシーやアユルヴェーダの脈診を用いた山本医師の「ほつと」する科、じっくりゆっくりお話を傾聴する金医師の「よく聴く科」、東洋医学の経絡・鍼を用いた能見医師の「痛み」の外來、「石川公子オイリユトミスト」によるオイリユトミー。イギリス、アメリカの認定ヒーラー資格を持つ小児科医平塚医師によるヒーリングや、マイクアップ・セラピーの講習会、太極拳の教室などがあります。保険診療の枠にあてはまらない分野ですので、自由診療ですが、ホリスティック医学・代替療法をもっと身近なものとして提供したいという山本理事長の想いで、普及に努力しています。

また、月に一回の金医師、能見医師による地域の皆様への「お気楽気功体操」も毎回となりました。さらに池川明先生や船越康弘さんの講演会、東福眞弓先生のライアーコンサートを開催などを通して病気の時だけの病院から、元気になるための病院、病気をもちの方も健康な方も集う、癒しの空間としての病院をめざしてまいります。

関心のある方、一度遊びにいらしてください。

(文責 能見)

## 山本記念病院 総合診療部のご案内

自分が入院したいと思える病院を作りたい

私達の病院は、東急東横線の日吉駅から、高台に登ることバスで15分のところにあります。そこは大都市・横浜とは思えない畑の広がるのどかな光景が見られ、その畑のなかに白い教会の尖塔のような避雷針の塔のある、遠くには富士山が見える9診療科目の131床の病院です。山本百合子理事長の父上、故山本善三先生の「自分が入院したいと思える病院を作りたい」という強い信念の基に、1984年創立されました。善三先生は、精神科の病院を、都内で建てていました。森田療法をいち早く取り入れた画期的な病院で、子供の時から患者さんたちとともに生活をしていた百合子医師は、父上のご遺志を継いで、人を愛し、人を信じ、その精神に共鳴する人々によって運営される病院を、この地に頑張っています。さて、具体的にどういう運営になるのか。日々の臨床に生かす方法を模索するなかで、シユタイナーに出会い、そして皆様との出会いがあり、アントロポゾフィー医学との強い結びつきを得ました。総合診療部には、気の医学で、上記の精神に共鳴した、金医師、能見医師が5年前から勤務するようになって、

新しい発想を形にすることができるようになったことから、3人揃って「国際アントロポゾフィー医学セミナー」に参加しています。そこから発展して、「日本アントロポゾフィー医学のたのめ医師会」の事務局を総合診療部で、させていたくことになりました。ドイッでアントロポゾフィー医学を学んでいた小林國力医師が今年9月から仲間になり、2007年医学セミナー開催の中心として、事務局が機能することとなりました。また、長野在住の大住裕子看護師による「シユタイナー」看護を学ぶ「セミナー」を総合診療部で隔月開催していただいています。病院勤務の看護師たちにも一緒に学ぶ場を提供したい、という山本理事長からのメッセージです。

総合診療部は、ホリスティック医学の観点から、人間は心と体がひとつとなっていることを患者様自身が認識できる方法論を、さまざまなアプローチで、わかっていたくように工夫をしています。ホメオパシーやアユルヴェーダの脈診を用いた山本医師の「ほつと」する科、じっくりゆっくりお話を傾聴する金医師の「よく聴く科」、東洋医学の経絡・鍼を用いた能見医師の「痛み」の外來、「石川公子オイリユトミスト」によるオイリユトミー。イギリス、アメリカの認定ヒーラー資格を持つ小児科医平塚医師によるヒーリングや、マイクアップ・セラピーの講習会、太極拳の教室などがあります。保険診療の枠にあてはまらない分野ですので、自由診療ですが、ホリスティック医学・代替療法をもっと身近なものとして提供したいという山本理事長の想いで、普及に努力しています。

また、月に一回の金医師、能見医師による地域の皆様への「お気楽気功体操」も毎回となりました。さらに池川明先生や船越康弘さんの講演会、東福眞弓先生のライアーコンサートを開催などを通して病気の時だけの病院から、元気になるための病院、病気をもちの方も健康な方も集う、癒しの空間としての病院をめざしてまいります。

関心のある方、一度遊びにいらしてください。

(文責 能見)

山本記念病院 連絡先  
045-593-2211 (病院代表電話)  
045-594-2417 (総合診療部直通)  
山本記念病院ホームページ  
http://www.yamamoto-k-nen.or.jp/